

広大から海外へ留学している若手からの便り

ロンドン大学留学便り

齋藤 伶 大学病院 皮膚・運動器診療科 皮膚科 医科診療医

2021年8月から2023年7月までイギリス ロンドンにあるUniversity College London, Department of Cell and Developmental Biology の Sandip Patel教授の研究室にお世話になりました。細胞内酸性オルガネラのカルシウムシグナルを研究しているラボで、リソソームのTow pore channelというイオンチャンネルの機能解析を行っていました。生物学の研究室で医学や病態と離れた内容の研究をすることは新鮮で、有意義な日々を過ごすことができました。

ロンドンはヨーロッパ随一の国際都市で、様々な国からの移住者や滞在者が居り、職場やプライベートで関わる人々からいつも刺激を受け、楽しい日々を過ごすことができました。建築や美術館、イベントなどの見どころも多く、移住者による各国料理のレストランも充実しており、研究以外にもたくさんの新しいことに触れることができました。

留学での学びや発見を今後の研究に活かしていきたいと思っております。最後になりましたが、留学の機会を与えてくださった皮膚科 秀道広名誉教授、田中 暁生教授、ならびに医局の先生方に心より御礼申し上げます。



University College London キャンパスにて

編集後記

早いもので今年も残り2か月足らずとなりました。今年の夏は真夏日や猛暑日が連日観測されるなど、平均気温が日本各地で統計開始以降最高を記録しました。そんな異常気象が影響したエサ不足のせいか、今年は日本各地で人がクマに襲われる被害が相次ぎ、過去最悪の被害となっています。また、新型コロナに加え、今年は夏が終わる前から異例とも言える早さで、インフルエンザの感染が急増しています。猛威を振るう野生生物とウイルス、全く性質が異なる2つですが、私たち人間は被害を最小化しつつ、いかにそれらと共生するかが重要だと考えています。

この度、BioMed News第10号を発刊するにあたり、お忙しい中ご協力いただきました執筆者および編集者、ならびに広報委員の皆様から感謝申し上げます。本号では、巻頭言、新任教授3名のご挨拶、トピックス（霞キャンパスニュース）、座右の銘、すぐれた論文や研究最前線などが掲載され、充実した内容となっております。是非、ご愛読をお願いいたします。

2023年11月 広報委員 吉永 信治

2023年（令和5年）11月発行

編集発行：広島大学大学院医系科学研究科広報委員会

住所：〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話：(082) 257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）

E-mail：kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

URL：https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs